

明治39年ころの健軍村

『熊本市・飽託郡誌』（角田政治編・県立図書館蔵）

本村は郡の東部を占め、内に健軍、神水の二大字あり、役場は健軍にあり、熊本元標を距ること一里二十九町、所轄郡役所を距たること二里十二町、地勢概ね高燥にして、所謂託麻原に属し、耕地は畑多く、水田其二十分の一弱に過ぎず。

戸口職業別

職業は概ね農業にして次は職工労働者なり。

戸数人口	農業	工業	商業	公職自由業等	職工労働者等	漁業	計
戸 敦	331	17	28	51	95	8	530
人 口	1,838	73	115	226	366	36	2,654

産 物

農産は本村主要なるものにして、田及び畑等少からず、即田三十七町七反四畝、畑七百五十三町七反、宅地四十一町三反五畝、山林六十二町八反一畝、原野二反二畝、計八百九十四町八反五畝なり而して重なる産出物は

品 目	産 額	価 額	品 目	産 額	価 額
粟	6.302 石	27.242 円	麦	4.181 石	20.234 円
大 豆	2.428	18.490	米	1.118	11.566
小 豆	1.347	9.208	甘 藷	176.096 貫	7.748
菜 種	687	6.374	葉煙草	9.647 貫	3.859
西 瓜	40.361	2.422			
合 計 131.930 円					

水 産

江津湖を控ゆるを以て多少の漁獲あり、即鮒二百九十二円(十三貫)、川苔五十四円(三斗)其他各種全計四百二十二円十銭あり。

本村は養鶏業甚だ盛にして群内第一なるのみならず県下稀有の養鶏業盛なる所とす、最近一ヶ年の卵の産出は四十三萬五千個(三十八年)金額八千七円に上り、県内は元より他県に向て輸出せらるゝもの少からず、此上改良発達を計らば実に絶好の産物たるべし。

本村は従来農業を似て立ち、商工、労働、其他の諸業は実に一小部分にして、其の商工業者等は皆農業家に依りて営業をなすものなれば、農家生活の度、向上するに従て他の営業も亦其の余沢を被るものなり、然るに一ヶ年一戸平均三十一銭七厘の不足を生じ実に寒心すべきことにして、之が救済を計るには農業の耕耘及施肥料選種等の手人を充分ならしめ、将来は可成出稼及び転業を止め、専ら耕作に力を尽し、種物肥料に改良を施し、現収獲に幾分の増収を計り、傍ら養蚕養鶏等の副産業を励まし内は須らく勤儉貯蓄の実を挙げ、以て今より十年の後に至りては、家給し人足り老を養ひ幼を育して恨みなきに至るを期せざるべからず。

